

京交山岳部報

No 381

'84 7月号

山岳部創設35周年記念集会

日 時 7月7日(土) 午後 2時 鳴滝寮

次 第 1. 記念講演

- 芦屋ロックガーデン 近藤 薫氏
- 一等三角点の山 坂井久光氏
- 利尻登山の報告 岡田 部長

2. 懇 談

- “思い出の山” 8%映画上映予定
- “これから登りたい山”

会 費 2,000円 (ビールパーティをします。ビールのだめな人は水割りを
どうぞ)

担 当 者 本局 三橋 勉(TEL 2215) 九条 田中忠久(TEL 2351)

備 考 なお当日、35周年記念品を、お渡ししますので、各支部とも代表1名は
必ず、出席して下さるようお願いいたします。

[第1494回例会] 夏山トレーニング

金毘羅山

(T)

日 時 7月8日(日) 北大路駅 8時集合

担 当 者 高速 岡田茂久(TEL 3282)

備 考 今年は北鎌尾根から槍へ行く計画です。岩登りの基本から見直す為のトレ
ーニングですから初心者の方も参加してください。

企画運営リーダー会

7月24日(火) 鳴滝寮

〔第1495回例会〕 沢歩き

口ノ深谷

(T)

日 時 7月15日(日) 三条京阪 7時集合
コ ー ス 三条京阪一坊村…明王谷…口ノ深谷…ワサビ峠…武奈ヶ岳
担 当 者 本局 鷲見敏一(TEL 3418)
備 考 6月10日が雨で行先変更したので再行します。

〔第1496回例会〕

薬師岳

(R)

日 時 7月21日(土)～23日(月) 21日午後2時出発予定
コ ー ス 京都一北陸自動車道一立山I.C一有峰ダム一折立…太郎山…薬師岳…
太郎平小屋(泊)
担 当 者 OB 津田 実(TEL 2243)
備 考 マイカーで行きますので、参加希望の方は担当者まで連絡の事。

〔第1497回例会〕 夏山トレーニング

金毘羅

(T)

日 時 7月29日(日) 北大路駅 8時集合
担 当 者 本局 川原傳治、井上一夫(TEL 2215)
携 行 品 登山用具一式
備 考 北鎌尾根のトレーニングのために実施したいと思いますが、岩のほりを
楽しみたい方もぜひ参加して下さい。



ミネラルウォーター

岡田 茂久

また臭い水に悩ませられる季節になった。琵琶湖淀川水系ではもう常識である。琵琶湖の富栄養化による赤潮の発生と植物性プランクトンの増殖やカナダ藻の繁茂等のニュースはもう目新しいものではない。衛生的で安全な上水道の水質を確保するため、水道の技術陣は様々の工夫をしているのだが、その反面フッ素や発ガン性物質トリハロメタン等逆の方向で健康への影響が心配されているようである。

そこででてきたのが『天然ミネラル・ウォーター』。コマーシャルに『健康飲料！水道の水に不満の方はどうぞ』水道局は洗い顔をしそうだが、6月の声を聞き曇りなると山紫水明の国

らしからぬ百貨店・スーパーを中心に町の酒屋さんまで巻き込んでの水売り合戦が俄然佳境に入ってきた。1ℓ当り200円前後でもはや「湯水のごとく、とのことわざは通用しない。

ミネラルウォーターというとせいぜい我々は赤い灯青い灯の巻でお目にかかるウイルキンソンしか知らなかったが、いまや清涼飲料水メーカー・洋酒メーカーはもとより、はては公共自治体を発売元としてまで大フィーバー。「六甲のおいしい水」「宮水」「大文字ミネラル」「神戸ウォーター」「富士山の水」「南アルプスの水」「竜神村の水」。外国産では「アルプス氷河の水」「レマン湖の水」「フィヨルドの水」ETC。いずれも人には作れない大自然の贈りものとしてのイメージを強調している。

「ミネラル」とはなんだろうか。辞典をひもとくと無機質とある。おもなものとしてはナトリウム、カルシウム、マグネシウム、カリウム、銅、鉄、マンガン、コバルト等の無機塩類で、生体の編成材料としては不可欠のものであり、これらの適度の摂取は人体に好影響を与えるというのが「健康飲料」という由縁と思われる。ちなみに日本ミネラルウォーター協会が定めた規定によると、ミネラル(イオン総量)が1ℓ当り40mg以上をミネラルウォーターとして認可しているということである。京都の地下鉄も隧道全体で1日に300トンも地下水が湧出している。ひとつこれを加工し「京の水」とでも銘うちミネラルウォーターブームに便乗、赤字財政の補填の一助にでもできないもんだろうか。

町では高い金をださねば飲めない「うまい水」も我々山に親しむもののはつねにただでその恩恵をうけている。敦賀半島は西方ヶ岳の銀命水、花崗岩の割れ目からサラサラと流れでる清水のうまかったこと、日にかざすと黄銅鉱の結晶であろうかキラキラと金色に輝きまさに甘露というべきものである。山の帰途に谷の清流を水筒いっぱいにつめ「天然のミネラルウォーター」でたてるコーヒーや水割りはなんともいえず、このときこそしみじみと山に親しむ者の幸せを感じる一刻であろう。ところがである。青天霹靂のように上流に民家やキャンプ地がないかきち安心して飲んでいた山水に猛毒が流れ込んでいたという先般の愛媛県宇和島のダイオキシン流水騒動である。それも水源を守るべき営林署の杜撰な除草剤の廃棄処分方法によるものであると聞いてはなんともやりきれない感じである。幸いに大事には至らなかったものの山の水はいつでも安心と思っていたのだが、わがホームグラウンドの北山の水もどうだろうか心配になってくる。山にまでスーパーで買ったミネラルウォーターを持参しなければならないようになるのだけはまったくごめんをこうむりたい。

△積立金制度について

40周年記念登山の費用として、今年6月から64年5月までの5ヶ年間、積立金制度を実施します。毎月2,000円(6月と12月は5,000円)を積立て一応15万円を目途にします。詳細については職員課人事係 三橋(TEL 2215)までお尋ね下さい。申込み〆切 7月20日まで。

音羽山から龍門岳へ

△851.7m

△904.3m

大倉寛治郎

昨年の後半は体調をくずし、山から遠ざかっていたが、体力も徐々に回復して来たので新緑と桜の便りを求め、足ならしめと考え、前からさそわれていた竜門へと行く事にした。4月12日近鉄八条口で奥村弘信さんを待ち、ホームで坂田利春さん、重田晋助さんと合流し6時32分発の橿原神宮前行に乗る。大和八木駅で乗り換え桜井駅からは、奈良交通多武峰行のバスで下居まで行く。寺川(倉谷川)左の車道を登って行くと橋の所に、石柱と音羽観音入口の標識がある。そこを左へ橋を渡りY字型の分岐、音羽観音1.5kmを右へ行く。人家もなくなると地道になり急な登りになる。7ヶ月ぶりにはいた登山靴の重いこと…。一汗も二汗もかいてもリズムがつかめない。そうこうしている間に寺の石段の所に着く。音羽山観音寺(善法寺)の境内には多くの樹木があり、天然記念物に指定された『葉つきイチョウ』が見られる。又少し行くと左手に春日社があり、山道を行くと前方に滝の音がする。この滝の水が、寺のおばあさんが言う「奈良県で一番うまい水。だそうで、さっそく一ぱい所望する。谷にそって登って行くとしたいに急な登りになる。ジグザグに行くと稜線に出る。植林された中を行くと音羽山△851.7m頂上へ出る。展望はダメだったし、三角点もかけていた。まことに残念である。

経ヶ塚山へは南の稜線を下りピークを登りきると経ヶ塚△889mに着く。こども展望は望めない。多武峰の鬼門に当たる為、経文を入れ建立された経塚がある。熊ヶ岳への笹原の下りは急で、足もとを気にしながら下る。途中には熊ヶ岳の山容が黒く見える。790mまで下り、再びピーク904mをめざし登る。高度差110mでまもなく熊ヶ岳912m頂上へ出る。ひとまず写真におさめる。そこから大峠への途中には、近鉄の無線反射板がありその横には新しい△四等859mがある。ヒノキの木立の中を下ると大峠に出る。峠には、地藏祠と碑がある。この峠が神武紀の炭坂と云う〔炭坂山神〕明治15年11月建立と記されている。大きい方の石柱は昭和15年11月建立の〔女坂傳称地〕石碑である。左へ行けば、上宮奥。右へ下れば針道へ、時間に余裕がなければここから針道・多武峰へ出るのもよい。

竜門岳へは、大きな石碑の横に登り口がある。指導標にしたがい竜在峠への道に行く。笹がおいしげり、あやしい所もあるが踏跡を注意しながら行けば、まちがうことはない。ピークを登り左にまがると分岐に出る。右へ竜在寺、左へ竜門岳の標識がある。ピークの西側をまき三津峠へ出る。なだらかな登りを頂上の東側をまき頂上へ出る。新しい水神様を祭る祠と櫓があり、三角点△904.3mもまだ新しい大理石であった。展望は、音羽山から縦走してきた山波が、熊ヶ岳からの尾根や高取山までの稜線が見渡らせるが、もやがかかっていて残念ながら近い所しか望めなかった。大峠で昼食後、なんとか体力も回復し、バテる事もなく頂上を踏めた。恒例のパンザイ・カンパイのセレ

モニーを終え、下山は竜門滝から山口神社のコースをとる。急な下りを樹木にすがり足元に注意しながら下りて行く。途中津風呂湖が見え一息入れる。谷筋を下って林道に出る。しばらく進むと竜門寺塔跡に立寄り、竜門の滝へ。右岸には芭蕉翁の句碑が建っている。少し下ると「久米仙人が修業した洞窟」と伝えられる洞穴があるそうだが、それらしい所もあるが、とうとう発見できなかった伝記・神話のロマンにひたり、久しぶりに山のなにかによいながら、山口神社のバス停へ。神社で汗をふき、16時12分発のバスに乗り大和上市まで行き、近鉄電車で予定どおり帰京出来た。

〔参加者〕 奥村弘信、坂田利春、重田晋助、大倉寛治郎

〔コースタイム〕

近鉄京都駅 6:32 一桜井駅 7:50 一奈良交通バス桜井 8:10 一下居 8:30 一音羽観音入口 8:35
…音羽観音(善法寺) 9:20 ~ 9:30 …尾根に出る 9:56 …音羽山△ 851.7m 10:07 ~ 10:15
経ヶ塚△ 889m 10:32 ~ 10:43 …熊ヶ岳△ 912m 11:09 ~ 11:15 反射板△ 859m 11:31
大峠 11:37 ~ 12:05 …竜在峠分岐 12:29 …三津峠 12:43 …竜門岳△ 904.3m 13:25 ~
13:25 …谷に出る 14:50 …林道に出る 15:03 …竜門寺塔跡 15:19 ~ 15:21 …竜門の滝 15:25
~ 15:30 …山口神社 15:55 …山口バス停 16:02 ~ 16:12 一 大和上市 16:33 ~ 16:45 一
京都駅 18:51

第1484回例会

立山春スキー

川原 傳 治

4/27 夜12時すぎ、広瀬さん、広瀬さんの友人2人の計4人で立山に向う。広瀬さんを除く3人は初めての春スキー。スキーをかついで登ってそこからすべり降りるいわゆる「山スキー」はどんなものだろうという興味もあり、真夜中の高速道路を、安全運転を心がけて立山へ。

4/28 美女平からバスに乗り換え(車は立山駅へおいておく)天狗平へ。まだ雪も多く、まわりの景色といえば雪の壁ばかり、天狗平へ着くとミクルガ池の温泉までスキーや荷物をもって歩く。雪にすっぽりおぼわれてはいるが、雪の上からでも地形はわかる。剣岳が見えた。約1時間サンダラスなしではとてもいられない雪の上を歩く。10時すぎに温泉着。57年の夏合宿で剣に登っていた。さっそくスキーの準備をして、再び外へ。足ならし、スキーならしといった気分が雷鳥沢へ向う。雪はガサガサでうまくすべれない。それでもなんとか雷鳥沢へ着く。昼食は途中でとった。ここから登りとなる。他の3人は、スキーをかついで登り始める。私はシールをつけて登る。一度比叡山のスキー場で試したことはあったが傾斜がぜんぜん異っていたので、おっかなびっくりであったが、スキーであれだけ登れるとは…。午後3時ごろ登るのをやめてすべることになる。「へっぴりボーゲン」と「ころぶこと」で2時間近く登ったところを20分そこそこで降りた。すべ

ることばかりに気をとられていたが、気分はよかった。これでも雷鳥沢をスキーですべったのだから。最下部からミクルが池まで1時間以上を歩く。寝不足と今日の行動でくたくたになる。5時すぎ温泉へもどる。夕食後、温泉につかり「あゝ、いい湯だなあ。」明日は一ノ越へ行くことに決まり、はやばやと床につく。

4/29 9時から出発、一ノ越へ。広瀬さんの友人2人は雄山は初めてということで、一ノ越にスキーを置き、登る。一ノ越には12時前に着き昼食をすませてからだった。私は、スキー靴だからということで浄土山の下までいくことにした。3人は雄山へ、浄土山の下までいくと、ついその気になり、浄土山と一ノ越から見たらとても登れそうになかった竜王岳(2872m)へ結局登ってしまった。竜王岳の頂上では天候は快晴で、あの北アルプスはいまでも目にやきついている。そんな景色で上半身はだかの日光浴を1人で楽しむ。3時すぎに一ノ越に4人が集合し、4時すぎからミクルガ池まですべる。広さがゲレンデとはまったく異い、どこをすべってもいいのである。しかし、すべるからといってコースをうまくとらないと、後で登らなければならなくなることを考えると、むずかしいようにも思った。5時すぎに温泉着。

4/30 9時ごろ温泉を出発し、天狗平まで歩く。広瀬さんは1人スキーで弥陀ヶ原まで下るさすが広瀬さんである。立山から再び広瀬さんが車をころがして京都へ。昼食は富山ですしを食べる。さすがに海のそばだけあって新鮮だった。昼から雨になり、立山で天候に恵まれたことを感謝しながら京都へ。9時すぎに帰宅。

スキーもやり初めなのに立山でスキーは早いような気がした。今回のスキー、やはりまだまだだった。しかし、山の道具としてスキーを見なおせたことはよかったと思う。そして、「碓氷をスキーですべりたい」と思った昨年5月の山行を思い出した。さてさて、どうなることやら。広瀬さんには運転を1人でやっていただき、感謝しています。どうもありがとございました。

第1486回例会

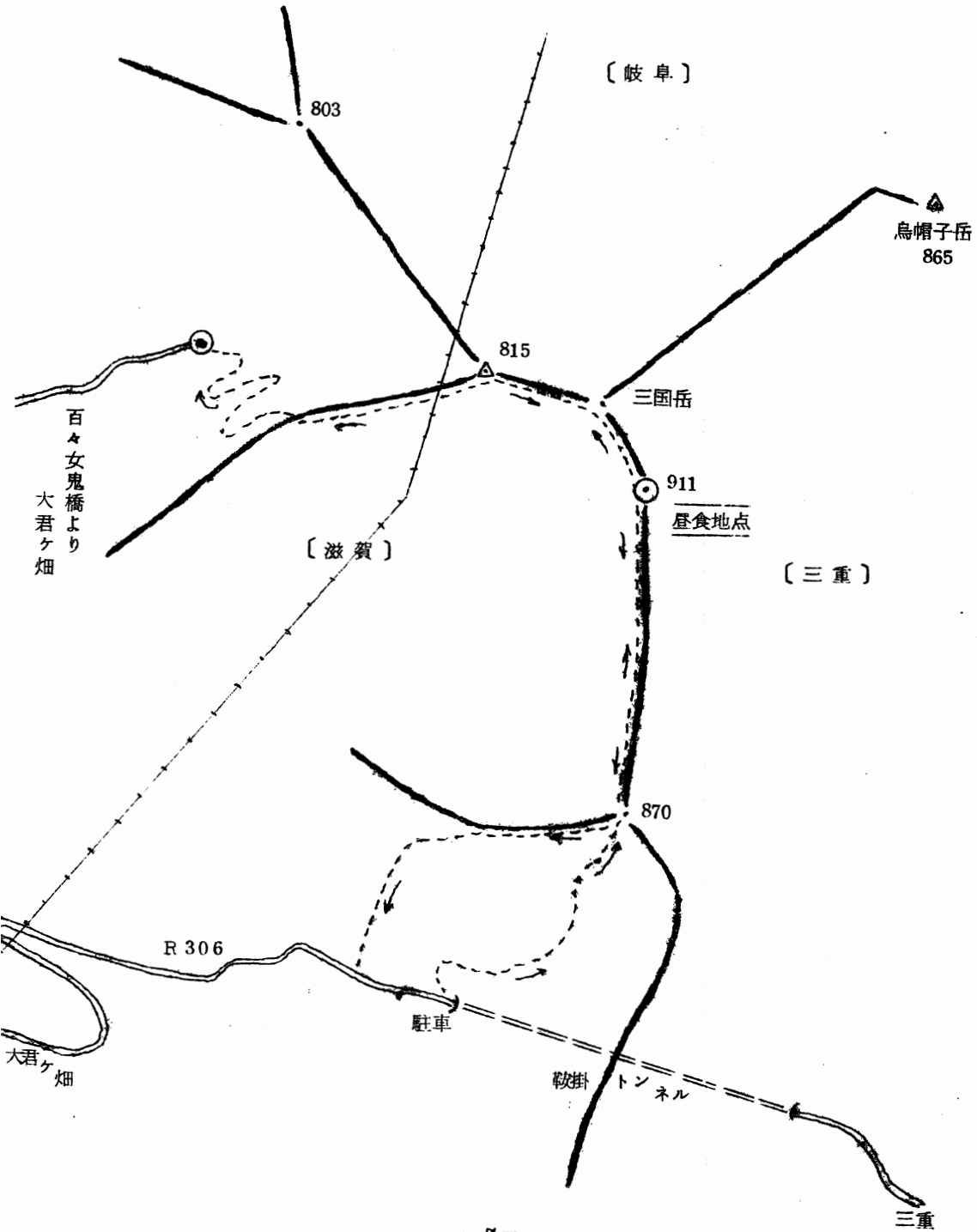
三国岳 △815m

和田良一

今年に入って例会参加がわずかに3回、一身上の都合で参加できない時がたびたびあり、なんとしても1回でも多くと願っている今日この頃です。さて、ゴールデンウィーク。今年は身近かな山行きがないなあと考えていた矢先、大槻さん、古市さんより5日に行こうと誘っていただいた。その山の名は「三国岳」近辺に2・3あるがどこの三国岳だろうと調べると、岐阜・三重・滋賀の県境の山である。当日、古市さんに迎えに来てもらい6時に東インターに集合、少し待つと大槻さ

んファミリー、吉田さんファミリーが到着。3台が一路彦根インターへ…。

彦根よりR 307号をお多賀さんへ、多賀神社前信号を左折、R 306を入れて大君ヶ畑から鞍掛トンネルへ、トンネル入口の空地に駐車。それぞれ身仕度をととのえて出発。



吉田さん腰痛のため大槻さんがコーチャンを背負い先頭で谷筋を登っていくが、道がはっきりしない。沢を飛び石づたいに歩いたり、木をかきわけながら歩く。どうも道がはっきりしないので谷筋から分れ直登コースをとる。まったく道のないブッシュコース…。

アヤチャンやユキチャンはやはりなれたもの、コーチャンは泣きながらサナエチャンは半泣きになって木々をよりわけて登る。しかし葉っぱのないのがせめてもの救いである。やっと尾根との中間点ぐらいだろうが、少し台地になっているところへ出た。そこはイノシシらの水あびの場所であろう。向いの御池岳や鈴ヶ岳の稜線が美しい、残雪もところどころある。

少し休憩ののち、再びヤブこぎしながら登るがかなりの急登だ。まだまだかと思いつつやっと稜線に(890m地点)に出る。道はあった。しかしそれもつかの間、道はあるがかなりのブッシュだ。今年は特に雪が多かったせいか、木が倒れたりして道がふさがってまったく歩きづらい。コーチャンは大槻さんやオカアチャンに背負われて、セーターやジャンパーをかぶって奮闘、気の毒だ。見晴しもよく景色も最高だが、せめて道がよかったらと思う。三国岳までは遠い。いったん750m位までおりまた登ったところが911mのピーク、ここで時間は早いが早朝出発のため昼食とした。

昼食後、男性4人で三国岳から三角点へ向けて出発。三国岳まではかなりのブッシュ、残雪もあり歩きづらい。三国岳から左へとる。視界と道がよく急坂となり、ヤセ尾根づたいに約100m程下りたところに三角点があった。地図どおりこの山は、山名と三角点は違っていた。見晴しはかなりよく北の方には霊仙山や伊吹山まで見えた。また昼食をとった911mのピークはかなり高くみえた。万才三唱ののち、もとの道を昼食地点まで引返した。

帰り支度をしながら、大槻さんより来た道を帰るのもよいが、かなりのブッシュだったので、子供や時間のことを考えると、道がよさそうだから三角点をこえて尾根づたいに下りたらよいだろうとのことになり、女性・子供組は三角点をとり、百々女鬼橋より左の林道の方へおりることになり、大槻さんと古市さんは車の駐車地点まで戻り、われわれのおりる地点まで迎えにきてもらうことで別れて出発した。

われわれのコースは予想されたとおり、見晴しのよい尾根づたいで、植林された中の道をルンルン気分で下山し、林道終点で迎えを待った。今回の三国岳、当初大槻さん曰く約1時間程で登れる山だからファミリーでと誘いをうけたが…。やはり、ヤブこぎのある楽しい美濃の山だった。

今回の三国岳は、地図上、滋賀、三重、岐阜の国境がその位置になるが、山名と三角点は少し位置が違うところにある点について先輩の伊藤さんにたずねたところ「三角点はあくまでも測量のための三角点であって山名(三国岳)とは別である。おたずねの三角点は点標名を阿惣(一)と私の資料によれば記されている」という御返事と貴重な資料一部と併せて大槻さんより後日、教えてもらったので参考のため記します。

【参加者】 大槻・F3、吉田・F4、古市、和田

【コースタイム】 彦根インター7:00～7:30 R306と林道分岐(百々女鬼橋)7:45～7:55

鞍掛峠8:15～8:40…谷筋岐れ8:50～9:40 稜線(890m)10:15 700m地点(休憩)

10:30～10:50 昼食(911m) →11:40～11:50 三国岳…12:05 三角点…12:15～

12:37 昼食地点

10:50 昼食(911m) → 12:55 ~ 13:10 三国岳… 13:30 三角点… 13:40 铁塔下 13:50 …
14:30 林道 14:40 … 14:45 車迎え

第1487回例会

日本ヶ塚山とその周辺の山

三 橋 勉

22時ごろ大垣わさび会の石原さん達と上郷S.Aで落合い美合P.Aで仮眠後、豊川I.Cから早朝のR151号を飯田線ぞいに進み、佐久間ダムに6時ごろ到着した。本日登ろうとしている山は奥三河のこの佐久間ダムの北にあって、愛知県では2番目に登りにくい山であり、1番登りにくい山はそのすぐ南にある離山917mという事である。

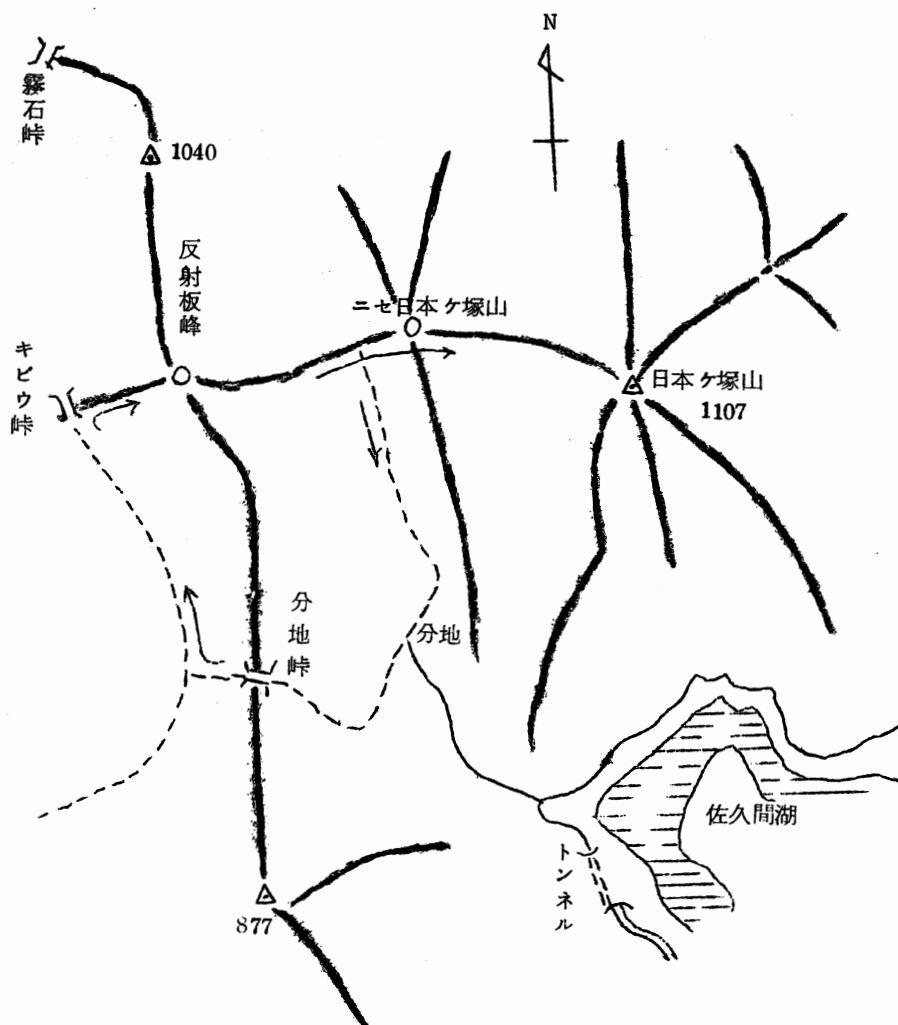
さすがに交通の便が悪い位置(日本一人口の少ない富山町)にあるため、昔先生がこの山の学校へ赴任するためやっとな霧石峠に辿り着いたところが、あまり遠いのもうやめますと引返したという話で、その峠を通称「辞職峠」というエピソードがあると石原さんから聞き、現在は車で簡単に来られるのにとすると、時代の差を感じた。

分地へ行く谷の入口に左右どちらも林道がついていたが、橋を渡った左岸の方に舗装されたよい道があり、どんどん進むとかなり上部に登っていくので別のルートかと思いながら進むと、やがて地道になり行き止りには飯場小屋が建っていて木材の運搬用の木組がしてあった。

そこで朝食ののち登山準備をして、7時前に出発する。約30m進んだところにコンクリートの橋がかかっていて、山之浦川と記してあった。橋を渡るとUターンするような道がついており、山の中腹をトラバースぎみに進んでいくと、最近手入れされたと思われる木組の新しい橋がかかっていてかなり手入れの行きとどいた道であると思った。ひと汗かいたところで休憩したりしながら8時すぎに伐採された明るい見透しのよい分地峠に着いた。

お天気はよさそうなので、今日は少し暑くなりそうだと思いながらキビウ峠に向ってここから北の方向に進む。谷に降る道との別れにさしかかったが、まっすぐ直進すると山腹を横切るような崩れた感じのところを滑らないよう注意しながら行く。やがて下からよい道が上ってきており、そこからよく踏まれた山道となった。そして谷ぞいの道をどんどん登るにつれて谷も小さくなると反対に湿地帯のような広い感じとなる。やがて峠に9時14分着。

キビウ峠は風通しのよい所で、東方向におだやかな尾根道が続いていた。ファミリーで楽に登れるような広い林の中の道はやがて反射板のある横(9:35)を辿り、展望が開けたと思ったとたんめざす日本ヶ塚のピラミッド型のピークがよく見渡せた。ところがである。そこから無情にも道は急降下していて、せっかく登ったのにどんどん下へくだっているのである。つり橋がほしいなあとはやきながら鞍部まで約50m~80mくらいの高差を15分で下った。そこから30分ほどかかってニセ日本ヶ塚山に到着(10:20)ニセ〇〇山というのはだいぶ恨みがこもっていると聞



かされなるほどとうなずけた。普通手前の山の場合、口〇〇山とか、前〇〇山とかよく使われているが、ニセ〇〇山というのは今まで聞いたことがなかった。

少し先の岩場からめざすピークがよく見え、山頂付近にアンテナのようなものが建っている。付近の山々や佐久間湖が望まれ、すこぶる展望はよい。ふりかえると反射板のある山から急降下してきたのがよくわかる。

登ったり下ったり繰返しのは、かなり細尾根になった所を通過するのと地図にないピークが、あったりして距離の割には時間がかかった。休憩の都度、大垣の服部さんからドリンクやおみかん

をいただき暑さの中で水分を補給する事は何よりものごとそうであった。少しヤブのあるピークで三角点を捜したが見当らず、なおも進むと国枝さんの頂上到着らしい声を聞き、急いでかけつけると少し切り開きのある真中に2等三角点があった。11時半であった。4月に登られた新宮の玉岡さんらの建てられた標識があり、その付近にメッセージ入りのビニール袋が置いてあった。中にはぐいのみ茶わんに鼠の鈴が手ぬいの座ぶとんに治っており焼酎がそえてあった。昔、伊藤さんや松坂の山口さんと登った総門山にも同じような仕掛けがあったのを思い出しながら、玉岡さんらしい心づかいに感激した。そのメッセージを紹介します。

山の大家

伊藤潤治様へ

御教示賜りました日本塚山は、本当に山らしい山でありました。山の何であるかを教えてくれた大先輩のお供をして登るべきではありましたが、山城の国と熊野とでは、仲々日を同じうすることが難しく、心ならずも一足お先に登りました。お許しを下さい。

いさゝか露払いをして、山頂を清め、大先輩を歓迎出来ればと、くさぐさのものを二等三角点に置きます。

本日(1984.4.15)朝、この山頂よりの眺めは曇天の本遠望こそ得られないものの常光寺山(次の目標)もよく見え、更に北の熊伏山が私をひきつけます。

下山を前に、今(AM 6:50)あわただしい中で一筆書き留めました。

伊藤大先輩の御健祥と近々御達成の1000山登頂に、心からなる祝福のコールを山頂にて挙げて下ることに致します。

1984.4.15 朝

新宮山彦ぐるーぶ

玉岡憲明

大江直義

頂上付近にはアンテナのようなものはなく、大きな木が遠くから見るとそのように見えたようだ。立木があり展望は360°とまではいかなかったが、それでも東から南方向はよく見え、南アルプスの残雪の山や明日登る常光寺山の山並が重なるようにみえた。山頂は暑かったが、それでも1時間程長居をしてしまった。後で気付いた事だが、少し木影で休憩すればよかったと思いながらのんびりと昼寝をする。春は日が長いのでゆっくりと山の上で休憩できるので気分的にゆとりがある。13時ごろ出発。下山も同じ上り下りのピークを越えるので時間的には変わらないが、どこで下降ルートを取ったらよいかと思いつつ、ニセ日本ヶ塚山まできてしまった。2時すぎなので10分程休憩する。寝ころぶと真上にヤシオツツジがきれいに咲いていた。

反射板峰まで登るのが遠まわりなので、見透しのよい伐採跡に植林との境を下降ルートに決め、

15時に降りる。急な斜面なのでどんどん高度を下げていく。登りであればとくに参ってしまう所だ。暑さのため谷の水が恋しいと思いながら降りるが、なかなか谷までとはとかない。右手の反射板山から南へ尾根が続いており、分岐峠の鞍部がよく見えた。あちはなるほど速まわりであると思いながら進む。

支尾根をくだりかけたが急斜面なので、どこかよい道はないかと付近をながめると、丁度、支谷の向い側にトラバース道らしきところがあるので少し引返して、向い側の斜面に移った。山腹をまくようについているこの道を進むとわらびを採った跡があったので、こゝまで人が上ってきているようだと思うと、ヤレヤレ安心である。時々道を見失いかけてよく捜すと又道が現われてくるといふ状態を繰返しながらはるか右下の谷と平行に、それでも確実に高度を下げて道が続いていた。ハッキリした道が下へ降りている分岐点でその方へ進むと、やがて谷道と合流した。谷川にて頭から水をかぶった。この気分は最高である。15時40分であった。

しばらく休憩して谷の脇道を進むと石垣のある屋敷跡のところに出たと思ったら、最初に渡った橋があり、無事に車の駐車地点に戻ってきた。16時5分であった。そこからトンネルをいくつもくぐりぬけて佐々間ダムに戻り約1時間半ほど走って、飯田線の水窪駅付近の民宿「ことぶき」に明るいうちに到着した。

翌朝7時に民宿を出発。飯田線の一つ手前の向市場の踏切を越えて舗装された林道を山住峠に向って登っていく。途中ヘアピンカーブの谷の出合で水をくみ、8時ごろ峠に到着し、山住神社に参拝した。樹令1200年という二本の大杉(天然記念物指定)のある海拔1100mの高所にあり、徳川家康公ゆかりの神社で地元の信仰が厚いという事である。

常光寺山の登路を聞いて登山口まで林道を10分程走った。8時15分出発、林道の側面を階段状に登り尾根の縦走路に出るとよく踏まれたハイキングコースという感じの道がどんどん高度を上げて続けている。小ピークに8時40分、中ピーク(9時14分)をすぎると少し下って向い側に頂上が見えた。10分程で鞍部にくだり、ゆるやかな道がついている。登り道を進むと、やがて、林の中の2等三角点1,439mに到着した。9時45分であった。地元の登山者によく登られているらしく、いくつもの標識があった。お昼にはまだ早いので早々に下山する。下山途中で静岡からの登山者10名ぐらに出合った。

峠に戻り神社の前の茶店で林道の状態を尋ねると、昨日開通したばかりという道が森の石松ゆかりの秋葉神社に通じているという事なので、早速この道を利用して1,335m△に登るべく出発する。少し走ると右側の谷を隔てた向い側に先き程登った常光寺山がよく見える地点があり、その下の方に登ってきた林道や水をくんだ地点等がよくみえた。

約6キロ進んだ地点で駐車し、少し戻って12時すぎにこわれたハシゴの掛っている取付点にロープがあり、それに取り付いて林道の壁を乗り越えて尾根道に出た。ゆるい広々とした登りにはコバイケ草の若葉があり、たいした藪もなく歩きやすい道となって登っていくと、なんなく2等三角点(山住山)に12時20分到着した。展望は大きな木で望めなかったが、少し戻った広い林の中で昼食とする。昨日苦勞して登った山と比べて、今日は楽々と2つ目の頂上でゆっくりくつろぐ。

約1時間程休憩して下山途中で石標のある鞍部に出て、そこからコースを右に取り元的林道に戻った。車の地点に戻る途中で水窪から21.5km、東雲名側から31.5kmという標識が建っていた。そこから南へ8km程走ると竜頭山△1,352mがある。この山もついでに登ろうと少しガスが出てきて寒くなってきたが、カラ身で14時すぎに出発する。

林の中をよく踏まれた散策路を行くと三叉路に出た。左の尾根道を登っていくと送電線の鉄塔のあるピークに出た。14時14分、なおも進むと家族づれのパーティに出会った。14:27分に頂上三角点に到着。展望はよさそうなのだが、天候が悪くなってきていて残念ながら望めなかった。20分後下山し、送電線のピークからストレートに急な下りを駐車地点に出た。

15時ごろ車に戻り、一路山岳道路を南下し、秋葉神社の手前からダムに向かって降りるコースを走り、国道152号線に出た。浜松に出て浜名湖SAで石原さん達と別れて、約3時間後に京都に帰ってきた。

【参加者】 伊藤潤治、三橋 勉 (大垣わさび会) 石原順二、国枝武喜、服部千章

第1488回例会

比良北稜縦走路

横 井 襄 二

昭和24年頃に初めて比良に登って何回目になるだろうか、退職の記念登山が又、比良と何か因縁めいたものがあるが、四季さまざま、又天気もさまざまで何時来ても楽しめる山である。昨日から雨の心配をしていたが、今朝はその心配もなさそうである。

湖西線から見上げる比良連峰の南の蓬萊山から打見山にかけても、今年は未だ残雪があり、今冬の豪雪の名残りをとどめている。8時30分に比良駅着。駅前で滋賀県の登山連盟の人々が、北比良武奈岳までのケーブル・リフトが某私鉄により計画され、これに反対するピラを配っている。武奈岳までケーブルが出来れば比良の自然が荒される。これは非常に悲しいことだが、そちらの方はこの方(かた)に任して、バスに乗る。

今日の予定では少し欲ばって蛇谷ヶ峰まで行く予定なので時間の関係上リフトで北比良峠まで厄介になる。先のリフトの新設反対と矛盾するようであるが、中腹までならばある程度の妥協も止む得ないだろう。今年の元旦に登った時は、北比良で既に2mもの雪があったが、今はここではほとんど残雪もなくスキー場となっている八雲カ原周辺もほんとに静かな空気を漂わせている。スキー場を左に見ながらぐんぐんと高度をかせいでいく。ほどなく行くと谷筋に残雪があり、所によっては50cm位もある。例年だと4月頃で溶ける雪が、今年は異常な厳冬で今迄残っているんだろう。そのため、水も豊富で到る所に冷たい清流があり、この辺りで小休止するが日当たり良い所では、こぶし、山桜が咲き、又新芽も新緑もあり春から一度に初夏が来たといった感じである。

灌木の林、少しきつい登りを行くと右後方に琵琶湖がかすんで見えてくる。天気が良ければもう

少し展望がきくのだが少しガスがかかっている。約30分程で武奈の下部に着く。ここから武奈岳までが急な勾配で一番しんどい所だが、今日は調子が良いのか全員がバテずに一気に登ってしまわずが山頂は何時来ても素晴らしい。360°の展望、特に北斜面に残雪がまだらに残っていて、昔白いまだらになった砂糖がのった菓子を連想させられる景色である。北の方には蛇谷ヶ峰がかすんで比良連峰最北部の貫禄をみせている。

昼食には少し早いので山頂での休憩もそこそこ、一気に下ってツルベガ岳へ向う。途中うぐいすの歓迎があり、目の前5m位の所で春を奏でている。この下りは熊笹が多く雪で倒れていて歩きにくい道が続く。約40分程でツルベ岳に着き、待望の昼食にありつく。木陰で涼風の吹く山での昼食は最高である。とっておきの冷たいビールがのどを通る時のうまさ、津田さんならずとも全員が楽しんでいる。しかし小さい虫がうるさく飛び、特に津田さんの方はかりつので、本人は困っているが、おかげで他の人は大助かりである。原因は結局分らないが、虫が津田さんが好きだったことにしておこう。種々の人々の御馳走を充分に胃の中に入れ休憩をとって13時過ぎツルベガ岳を後にする。この当りから特に雪が深かったのか、杉・松の太い枝が幾本となく折れている。相当な積雪があったのだから、武奈岳から南では人も案外多いが、この辺まで来るとほとんど人にも会わず、静かな山である。又こぶしがところどころ咲いていて疲れをいやしてくれる。木の枝にあるナイロンの赤テープも少なくなり、少し道のわかり難いところもあるが、積雪期でないので案外安心して歩ける。ツルベガ岳と地蔵山の間地点で休憩する。巾20m、長さ30m位の雪渓があるこの辺は、特に雪の筋道だったのが3年生位の杉の造林したのが折れたり曲ったりで、元に戻すのには数が多いので大変な労力と費用がかかるだろうと、他事ながら心配する。雪渓で最後の雪の感触を楽しみゆるい下りを歩く。このあたりから右下には比良の山並に囲まれた集落が手に取れるように見え、まるで箱庭のようである。木々の間に見え隠れする景色を見ながらぐんぐんと下りボボボ峠に着く。本来ならば、ここより往復1時間30分程の行程で蛇谷ヶ峰まで行く予定だったが、最終バスの関係で今回は残念ながらとり止めた。

峠より40分でバス停に着くが、この間でも樹木・竹の折れたのを随所でみる。今年の冬が如何に大雪であったのかさまざまとみせられた山行であったのと、残雪、こぶし、山桜、新緑、うぐいすと春から初夏を一度にみせてくれた北比良の顔であった。

最後になって申し訳ありませんが、今回の退職に際し、多数の山の仲間より記念品を頂き誠に有難うございました。誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

〔参加者〕 荒田夫妻、津田、原田、石田、大槻、奥村、上島、伊達、豊沢(市役所)、
沢井、山下

〔コースタイム〕 京都駅 7:42 - 比良駅 8:20 - リフト前 9:00 … 北比良 9:30 … 武奈岳 10:45
… ツルベ岳 11:45 … 峠 15:30 … 畑 16:40

ツルベ岳山頂にて横井氏に記念品の目録(ワカン・登山シャツ)をお渡ししました。なお、横井氏から当山岳部にエスペースの2~3人用テントを寄贈していただきましたのでお知らせします。参加者の他に多数の方々のご賛同がありましたので報告いたします。

〔記念品のみ賛同者〕

(OB) 伊藤潤治 (本局) 方山宗子、渡辺智生、渡辺朋子、三橋 勉、鷲見敏一、
井戸澄夫、楠とし子、大木秀実 (高速) 岡田茂久 (梅津) 吉田 武
(九条) 木水善美、古市昌造 (烏丸) 大倉寛治郎

第1490回例会

半 国 山 坂井、山下両氏還暦祝登山 にお供して

津 田 実

6月3日 エースこと坂井氏、氏と山行を御一緒したのは氏の500座登頂記念に北山のフカンド山853mに行ったのが最初だった。500座と聞いただけでとても老生には至難の業。どんな強の者かと内心恐れをなして最後尾を付いて歩いたのを想い出す。それから鈴鹿、京都北部といろいろの山へ行ったが、第一印象と違って仲々愉快的御入で、エース・最高・第一流とはどなたが付けたか知らぬが誠に当を得た称号と心得る。

山下氏は、同じ電車の出身であり乍ら無念にも山行を同じうする機会を失い、本誌に紹介出来ぬのが残念である。然し、氏とて山の勇者であることに違いない事を氏の名譽の為に申し添える。

半国山へは55年3月30日に河村先輩と弥十郎岳山頂で山神様のお下りを戴き過ぎ、赤熊から半国山頂迄死の行軍をしたのが忘れられない思い出の山である。閑話休題。

今回は赤熊と違って宮川から金輪寺迄車で入り、其処から歩いた。お寺の前から少し下って右手の山道を登り、尾根を忠実に辿って行く。地図上506地点で小休止、此の辺から荷物が重過ぎて先頭集団が少し遅れ出した。無理もない。本日のセレモニーの為に呑みもの入ったクーラーが二個、鍋とか炊事道具、燃料、水、いろいろの道具を少人数で上げて貰い、老年組は手ぶらである。これはイカンと老骨に鞭打ってお荷物的一端をかつがせて戴いたが、数米でダウン。イヤ、ハヤ、年は取りたくないものだ。655地点で一本立て山頂へ突進。

丹波半国が見下ろせるところから半国山と付けられたと何かの本に書かれていたのを思い出す。たしかその本に山頂は高原状で見晴しのよいところとあったが、現実には木々が繁り、今日はガスがかかって見透しは悪い。それと雨の予報だったので厚手の衣服を着て来たら、寒いどころか真夏のような天気になって半分バテ気味になった。そこへ冷いビールに焼肉と来ては、もうタマラン。セレモニーもそこそこに先づ一杯。アッ、エライスンマヘン。申し遅れました。セレモニーの模様を申し述べます。先づ本山行の担当者である田中副部長より、坂井・山下両先輩の輝かしい山行歴の紹介があり、岡田部長の還暦の御祝いと、いつ迄も元気で山へ登り、又、我がクラブへの御指導を賜わるようにとの挨拶ののち御祝いの品をお渡しして、全員で両氏を胴上げして祝いました。

楽しい団樂のうちに時間もたち、余りゆっくりしていると帰りに思わぬ渋滞にあって明るい間に帰宅出来ないことがよくあるので、後髪を引かれる思いで山頂を後にする。

金輪寺は延応2年(1239年)の創建とあったが新しい建物であった。此のお寺も幾多の変遷に遭った名刹の一つであろう。仏前に叩頭、合掌三拝。此の不浄の身の安らかな黄泉(よみ)の世界への旅立を願ってお寺をあとにする。このあと、坂井、岡田、大槻貞、奥村、三橋とが湯の花温泉でお風呂に入って、さっぱりしたところで帰った。

坂井さん、山下さん、お元気で何処かの沢で、峰々で登山服の貴男とお逢いしましょう。

〔追記〕 重い荷物を上げて戴いた皆様、ありがとうございました。お陰で愉快的な山行が出来ました。本当にありがとう。

〔コースタイム〕 西京極 8:40 - 金輪寺 9:30 ~ 9:55 ... 尾根 10:08 ... 大岩 11:05 ... 半国山
11:25 ~ 13:55 ... 金輪寺 15:10 (解散)

〔参加者〕 (OB) 坂井、山下、津田、奥村、山村、河村夫妻

(本局) 石田、大槻雅、方山、渡辺朋、三橋 F 2、原田、鷺見夫妻

(高速) 岡田、河合(新人) (梅津) 吉田 F 4

(九条) 田中 F 1 とその友人 2、上島、大槻貞 (烏丸) 坂田、台川

以上 32名

〔記念品のみ賛同者〕

(OB) 近藤、伊藤、中村、森下、田中、畑、石田、王生

(本局) 三浦、川原、楠 (梅津) 松井、徳野

(高速) 篠田、出海、大沢、辻 (烏丸) 台川、井上

以上 19名

御 礼

OB 山下 周 道

さる6月3日甲子の選曆を迎えたと言う事で、半国山に於いて心温まるお祝いの登山を催して頂き誠に有難うございました。又その時には記念の品までも頂きました事、重ねて厚く御礼申し上げます。それに当日は思いもよらぬ胴上げや、パーベキュ、生ビール等の盛り多くさんな酒宴に招かれ、私も今までこんな素晴らしい歓待を味わった事はございません。このような豪華な祝福を受けながら何と御礼を申し上げてよいやら、その言葉もみつきりません。

人生は60才から甲子の星廻りも良いし、これから例会山行にも参加いたしますので其の折又色々とお世話になると思っておりますが、何分共よろしくお願い申し上げまして簡単ではございますが御礼の挨拶にかえさせていただきます。

還暦祝い有難う

OB 坂井久光

私は昭和24年に入局し、26年に係員となり電車課に配属され、そこで京交山岳部の生みの親近藤薫氏と出遭った。当時リクレーション運動の起った時代で、局にリクレーションクラブ創設を計りパンフレットを配ったが、近藤氏より山岳部にも同様な機能部分があるからやめて入部しろとのおゝせで早速素直に入部した。

たまたまその頃、富士銀行を停年でやめた父が創めた経本の製造会社が倒産して弟妹が幼く在学中だったので、兄の私独りが働手で継母と二人が力を併せ、傷心の父を助け一家の支柱となって煙草も吸はず毎晩遅く迄、人の倍以上働くはめとなった。

稀の休みも生活が苦しいと贅沢は出来ず、京二商時代現岳連会長小谷隆一氏のすゝめで山岳部に入部し、北山や由良川源流を廻行して小浜に出て帰ったことがあり、現長岡京市福祉課長西小路清一氏と共に西山一帯を歩き廻ったことがあり、山や自然が大好きであったので、交通費がかゝらぬ近郊の北山・西山を先に登って憂さばらしをした。それが嵩じて部報に投稿するや近藤氏のすゝめで、「登山」(明文堂出版)の二号に北山のガイドを書いたのが始まりで、その後山と溪谷・岳人に北山のガイド・榎の子蛇等を書き、後に故森本次男氏の依頼で「北山と丹波高原」の一部を執筆した。又、京都山出会にも入会してリーダーとして現一等三角点研究会の副会長をして頂いている松浦勇次氏のサブリーダーをして大峯・台高の溪流廻行に青春の血を燃やしたこともあった。

その後、京交のリーダーとして北山・丹波を中心に近畿の山々を先輩伊藤氏の指導の下に歩いたり、近藤氏の下に御在所山から北アの槍・穂高へも遠出するようになり、当時泉州山岳会々長の仲西氏の知る所となり「近畿の山」に京都府の山と比良連峰を書いたりした。

稀に部報に投稿した田歌紀行に広河原から佐々里峠を越え田歌へ出て帰った溪流釣紀行が今西錦司氏の知る所となり、始めて連れて行かれたところが大峯第一の険悪な池河でその支流滑谷小屋で2・3泊したところ、不慮の出火で山彦荘が焼け、先輩伊藤氏と2人で買物帰りで発見、大奮闘の末消火したことがあり、爾来山と離れられぬようになった。

以来今西先生の御指導に頼り、全国の山々を歩き、十二支会・激励会(自慢会)・J・A・Cと二重・三重に入会してS49年に一等三角点研究会を創立した際顧問になって頂き、今年も子の泊山へ御一緒して、山頂で会員諸兄姉より祝福を受け、先生から「お前もやっと一人前になったなあ」と云われ、先生が年をとられたのがおいたわしいと感じたが、私も年をとったなあと思った。

今年5月15日で還暦を迎えたが、20日に次女が結婚したので忙しく子の泊山は3月15日で還暦前だったので実感が伴なわなかったが、今回京交山岳部の有志の皆様方に半国山で温くお祝いして頂き、万感こもも満ち溢れて唯感涙にむせぶ思いであります。

昨今何等京交の皆様になすこともなく凡々として歳月を送り、60才に達しましたが、元来修養に劣り皆様から指標と仰がれる存在ではありませんのに、かゝる立派な贈物や好天に恵まれた半国山頂の昼飼(ひるげ)の祝宴は将来共、私の記憶に残ることと思います。

どうか皆様も今後共健康に留意し、家庭の平和を心掛けて一家末長く元気で登山に精進され、社会に貢献されることを祈り感謝の辞とします。

九州熊本と宮崎の山旅

坂井久光

4/27 終業後直ちに四大から阪急で梅田、地下鉄でナンバ乗換へ、南海で泉大津に行きフェリーで小倉へ。新幹線・特急と乗継いで、4/28 12:50 熊本駅に着くと、本田・奥野両氏が迎えてくれた。本田氏の運転で緑川沿いに走り内大臣林道を通って広河原へ。国見岳1,739mの登山口に駐車。足を傷ついた奥野氏が残り、本田と二人で杉林の急坂を登り、原生林のブナ・ミズナラ・ツガの大木が茂る山腹を巻いて京丈尾根に出て笹間の道を登ると山頂に出て小祀があった。天候が悪く展望は駄目だったが、山頂近くコバイケソウの群落があり大峯を偲ばせる。途中の線川溪谷も岩壁にツガが生えよく似た様相を呈していた。登り1:40、下山55分。

内大臣とは平重盛を指し、この地へ隠栖した伝説による。尾根を越せば落人部落の椎葉村である。帰路名勝霊台橋(石造眼鏡橋)を見て熊本ビジネスホテルへ。

4/29 朝食后近くの水前寺公園を散歩。阿蘇山の伏流水が石底の池へ流れ込み芝生の緑と映えて美しい。奥野氏が迎えに来て五木の白髪岳へ。子別峠を経て新設林道を走り登山口へ。独りで福寿草茂りミツメが目立つ小道を進み、山芍薬や一人静の群生する急坂を登って1,244mの山頂へ。展望は周囲が伐採されて360°であった。小憩後下山。車で五木の頭地經由人吉盆地を通り遠原へ。最奥の遠原家の前で駐車。のどかな山村の山畑を通り、谷を渡って川沿いに登り炭焼窯跡から支尾根に登り、主稜へ出たが△が北か南か判らず、北へ向ったがピークがないのを確めて戻り南へ、やせた岩稜地帯を通り無線塔2基の立つピークへ。その上に△があった。四方へ切開があったが展望はあまりよくない。小憩後少し北へ下り、踏跡を頼りに防火線らしい切開きを下って別の窯跡に出て旧道をジグザグに下り支尾根に出て元の山道に合して下山。車で人吉駅前のB・Hに一泊した。

翌4/30 本田氏が友人一人と共に迎えに来て白髪岳1,417mへ。国道を東へ免田町から右折して榎田から林道に入りカーブで高度を稼いで登山口へ。自然保護区となっており、歩道も整備されていて緩やかな起伏を辿る。丁度西日本新聞の津田さんが撮影に村人と来ており本田と知合いなので驚いていた。九州自然歩道の本屋に頼んでいたが入手出来ず、名刺を渡して依頼した。小雨の中を雨具をつけて登ったがブナ・ツガの大木がうっそうと茂り肉桂を本田が見付けた。下草にコ

バイケソウが沢山生えていた。猪子伏の三等△を踏んで起伏を辿りやがて御池神社へ。寿永の昔この地で源氏に追われた平家の落人が身を投げたのが元で身池と云い、後御池に変わったとか。今は干れて窪地になっているのみ。

緩い歩道を登りつめて山頂へ。標石や山名を現わす標柱があり雨で展望はきかないが、三人で万才三称後小憩した。熊本の高校教師の一行も後から来て本田さんに会い、名は知っていたが会うのが始めてだと云っていた。往路下山猪子伏で昼食休憩后林道駐車場へ行き、湯の前經由湯山へ。市房ダムで一服して神苑荘へ送って頂き別れた。

5/1 7時出発、一の鳥居迄約30分。頂上へ10時過ぎ到着。5合目あたりからツクシアケポノツツジがサイゴクミツバと繡を競いコブシも咲いていた。霧で展望は駄目。熊本の老人2人が登っていた。湯山へ下山バスで湯の前に行き、国鉄バスに乗継いで村所へ。横谷峠は立派なトンネルに代り、代替道路工事が進んでいた。村所で連絡がなくドライブインで休憩後ヒッチして高鍋へ。大淀川沿いにダム沿いの長路を下った。高鍋からバスで宮崎へ。山水荘で一泊、大谷宅へ電話したら帰路寄って宅へ迎えられ、夫妻の歓待を受けた。鰐塚・大森・笹の峠の登路や交通をお尋ねして椎葉村の松岡宅へ電話で連絡して頂いた。

5/2 バスで田野駅へ行きタクシーで楠原へ。楠原から長い林道を歩き、やがて山道とかわり壊れた祠跡を通り椿の花を踏んで岩稜が路傍に可憐な姿を見せていた。無線塔の林立する山頂は展望は良いが建物が邪魔になる。

快晴で遠くの山々が見え海も見晴せた。昼食後往路下山。田野迄歩いてバスで宮崎へ。バスで綾町に行きタクシーで綾川荘へ。三階建の立派な休養センターで朝食弁当付で2,000円だった。

5/3 タクシーで古賀根橋ダムの奥の発電所へ。こゝから送水路添いに登路があると聞いたのですぐ手前の踏跡を辿ったが急崖で木に掴まりロッククライミングで登り良い登路へ。見ると先に鉄梯子の階段が下から上っていた。送電線の鉄柱も走り急坂を登り一旦谷川へ下り一服して汗を拭い、ジグザクの急坂をひたすら登り立浪草の咲く中を登りつめて稜線へ。こゝに荷を置き頂上へ。直下に鉄塔や建物があり山頂は空地で西に原始林が続く。展望は三方が開け、東に釈迦ヶ岳の稜線が見え、遠く尾鈴の山塊が霞む。南に北に宮崎の山々が重畳々して見えた。撮影後下山。昼食后東へ縦走を試みた。道跡はあるが茂りがひどくはっきりしない所が多く、804の手前で支尾根の道を取り下山。余り良い道ではないが尾根を忠実に辿って送電線鉄塔の下に来て一旦登って急坂を下り谷に下って道路へ。綾町へヒッチして出てバスで宮崎へ。宮崎からバスで都農に出て駅前の亀屋旅館で一泊。

5/4 タクシーで尾鈴登山口へ。昨年雨で登山出来ず再登を試みた。雨模様なので急いで急坂を登り展望台のある山頂へ。360°の展望だがガスがかかり余り遠くは見えないが、周辺の山々に林道が延び広域に伐採されているのが判る。小憩後下山。甘茶谷の溪谷美を賞で乍ら下り、矢研の滝へ。直下70mの雄壮な滝で附近は滝の豊庫で尾鈴瀑布群が天然記念物となっている。キャンプ場を経て登山口で熊本の馬場さんの車に拾われ日向市へ。バスとヒッチで椎葉村松尾へ行き、出迎への松岡さんの車で薄地の松岡宅へ。急坂をカーブで登った一軒屋で改築で美しい家で夫妻の歓待

に預る。昨年今西博士や松浦副会長一行が大谷氏の案内で知り合った家で純朴な山村の人だ。田畑や牛や林業(主として椎茸栽培)で生計をたて長男が上椎葉へ出ていて休田で帰っており、娘も二子を連れて帰っていて賑やかであった。5/5は雨で停滞。

5/6 小雨になったので雨衣を着て笹ヶ峠△を往復、山頂近く笹は密生していたが伐開があり登り1時間、下り35分位であった。10時頃下山を告げお礼をして車でバス停へ。この店で息子さんにお礼の品を買って別れた。バスはダム沿いに走り日向へ。日向の高砂団地の友人岩坪氏を訪れ挨拶して汽車で別府經由関西汽船で神戸へ。阪急で帰京、山旅を終えた。

〔コースタイム〕

- 4/27 17:45 四大ー18:48 ナンバー 19:10～19:18 泉大津ー19:28～20:10 …フェリー乗船
- 4/28 9:10～9:27 小倉港ー9:45～10:04 小倉駅 10:28～11:05 博多ー12:50～12:55 熊本ー14:07 内大臣林道入口…14:40 広河原…16:20～16:30 国見岳△ 17:25…広河原 18:00～18:05 霊台橋…19:00 熊本B・H(泊)
- 4/29 7:30 出発…9:20～9:33 子別峠…10:00 白髪岳登山口…10:40～10:45 白髪岳△…11:30 登山口…12:40～13:10 人吉…14:13 遠原…14:37 竊跡…15:00 尾根…15:20 県有林界標(北尾根)・15:45～15:50 国見山△…17:30 人吉B・H(泊)
- 4/30 8:15 出発…8:47 林道分岐…9:35 登山口…10:40～11:05 白髪岳△…11:55～12:15 猪子伏△ 12:20～12:25 登山口…14:00 湯山神苑荘(泊)
- 5/1 7:00 出発…8:00～8:05 1合目…8:30 4合目(社)…9:12 6合目…9:47 8合目…9:57 9合目…10:07～10:10 市彦山△…10:55 6合目…11:57 一の鳥居…12:30～12:32 登山口バス停…13:05～13:10 湯の前…14:00～14:55 村所…16:10～16:20 高鍋…17:20 宮崎…17:35 山水荘(泊)
- 5/2 8:00～8:30 宮崎駅ー9:17～9:20 田野ー9:30 楠原…12:30～13:00 鱈塚山△ 15:15 楠原…15:55～16:13 田野ー17:10～17:45 宮崎ー18:54 綾町ー19:10 綾川荘(泊)
- 5/3 8:00 出発ー8:30～8:35 発電所ー9:40～9:45 谷川…11:00 稜線 11:12～11:15 大森山△…11:22～11:50 稜線…13:48～13:55 分岐…14:15 道路…14:30 ヒッチ…14:53 綾町…16:07～16:30 宮崎…18:20 都農…18:50 亀屋旅館(泊)
- 5/4 8:00 出発ー8:37 登山口…10:10～10:30 尾鈴山△・11:40 登山口…13:05～13:07 矢研滝…13:27 キャンプ場入口ヒッチ…14:35～14:46 日向市ー17:30 椎葉松岡家(泊)
- 5/5 停滞
- 5/6 8:00 出発ー9:05～9:07 笹ノ峠△…10:00 灣地…10:40～10:59 松尾橋…13:25 日向…13:30～14:25 岩坪宅…14:30～14:43 日向駅ー17:30～19:20 別府
- 5/7 7:50～7:58 神戸港ー8:10～8:15 三の宮ー9:23 四大

表 六 甲 保 壘 岩

萌 椰 子

5月17日

同じ職域の大倉リーダーよりたまには顔を出して下さいと言われて、4月の山岳部例会に出席。山スキーの話が弾んでましたがお話が終りに近づいて大槻部長よりこの様な本がありますが、ご存知ですか、「いや、知りません」とクライミング・ジャーナルという雑誌を拝借して帰りました。

私が壁に登り始めてからは、たゞ夢中で登ってきたようで投稿する場合には広沢さんから道具の名称や地名、ルートのグレード等々をアドバイスして頂き拙文に綴っておりました…が、拝借したクライミング誌にすくなく刺激されまして、知識の吸収も必要と急遽フリーとかクリーンとかのクライミング翻訳誌を仕入れて通読いたしました。

しかし今迄に登ってきた壁でこの本に書かれている事があてはまるのは…？と頭をひねっておりましたが、この保壘岩は翻訳誌の内容に少しはマッチしているのではと感じましたので皆さんは既によく御存知とは思いますが、私の独断と偏見で報告させていただきます。

現地へは自家用車で行かしても交通機関利用でも便利に行けますが、近くなってからの入口がわかりにくいと思いました。駐車場より歩いて5分程で保壘岩中央稜の頂点へ出ます。見晴良好神戸の街並と港が眺められます。岩場の取付点への下降路は急傾斜なので私はザイルを使用しました（クライム・ダウンの技術は現在の私にとって登るよりムツカシイのです。）

案内書にはこのルート28本が書かれてますが…、クライミングギヤーの使用でいくつものルートが選べます。ルート自体の長さはワンピッチです。まず最初に中央稜の東面にあるチビッコハンルート、これは眺めるだけでルート図にのってない右横のクラックを攀りましようとして広沢さんのリードで出発（本日の私はオールセカンドです。）いつもと違う点は支点到に使うピンやボルトが無いだけです、そうなのです!! この岩場はピンやボルトの数が極端に少ないのです。15mから20m程の高さにピンが2本か3本、10m程登るのに何も無いコースもあります。ですからトップに登る人が自分で好きな所に支点を作り、その支点にランニングピレーをセットしつつ進むのです。（ピンやボルトを打たずにです。）

但し支点の作り方の「原理」は簡単です。岩の割れ目や突起している所にナツを入れたりテープを結びつけばよいのです。但し実際に壁に登っていて自分のセットした支点に非常時に（つまり落ちたとき）安心して体重を預けられるか否かということが大切な問題となり、進退如何と汗をかくこととなります。この方法は割れ目のないスラブがあれば登れないとの理屈になりますが…さけてコースを選ぶか、さけられない場合にはボルトが打ち込んであります。

どの様な登り方でも2番手は気が楽なものですが、それでも簡単に外れないブッシュ（簡単に外れるものもありますが、それではトップに行く人が困まります。）上手に外さないで永久に壁から外れ

てくれないフレンズの扱いは難儀しますし、一応フリースタイルで登ってますので、用具の回収に片手を使い残りの片手で小さなホールドを掴みつつ壁から剥されぬ様に行動します。

翻訳書によれば、この方法で登れば時間と体力が多く使われた以上に岩と親しく対話出来ると書かれてましたが、セカンドで登ってもそんな余裕はなくてナッツ類を外すのに悪戦苦闘でした。(しかし、本日は登攀中にザイルにぶら下ってません。)

ダッコチャルートで頂点に戻り、中央稜下部壁までザイル懸垂で降りてから右クラックルートに取付く。取付点確保もナッツを使って作ってみてはどうですか…と言われて、なる程そういう方法も練習になりますと適当なリスを探し、直径1cm程のワイヤー付ナッツをリスに填めこんで体重をかけてみましたが、一定方向にのみオーケーで3個のナッツを使ってボデー確保をして、ハイどうぞ!! その後南面の電光クラックを登り西稜のハングで本日終了となりましたが… この方法は多くの道具が必要ですし、それがまた高価なので困ります。ナッツだけでも型の違うのや、大小によって多種類になりますし、フレンズやトライカム一式となれば…ウン万円となります。

同じ型と同じ大きさはかなり必要なルートもあるそうで、一式持参では不足たそうですし、道具ばかり取り揃えても現地での使用が出来なければ宝の持ち腐れです。適材適所の判断が素早く適切に出来るには多くの時間と何回ものトレーニングが必要と感じました。…でありますから、私の場合はいつもの山の店へゆきましても御主人に値段と使用法を聞くだけで、遠くに離れて眺めることにしますが… いかがでしょうか?

又どこの岩場もこの方法でしか登れないのなら話は別ですが、市販されているルートの案内書にのってるコースの多くはピンカボルトが打たれてるか立木が利用できますので、フリースタイルで登るにしてもその支点を利用した方が安価に楽しめると感じました。… 皆さんは如何感じられるでしょうか。独断と偏見で書きましたので間違ってる点もあると思いますし、気付かなかった点もあるでしょう… 皆様でお気付の点がありましたら、御指摘下されれば幸いです。以上でクリーンクライミング初体験の報告を終わります。

五 の 参 り

5月11日 晴

畑 照 人

夏日続きの昨今、少しでもよい時候と思い月初めに五の参りへ行きました。家も早く7:00 月輪寺のコースです。バス停から金鈴橋へ向います。何時もは下の道ですので、変更したら花に廻り会えるかも…。シャガの花盛り、これは今、何処にでも咲いています。ヒヨドリジョウゴ、たった一本です。ありました。お寺前の石楠花は盛りを過ぎてました。でも見事なもんですね。神社参拝、16°です。社務所前の桜は今満開でした。八分咲きもあり、思わぬ花見で満足です。小学生の

遠足の生徒に行きあいました。社務所の人に先生と間違えられる一幕もあり、苦笑いです。五合目小屋のすぐ後から、大杉谷道の案内板があるのに気付きました。今回はこの道を尋ねたいと思います。カキドウシ、チゴユリ、マムシグサ、ツツジ花盛り。やっとな若葉はホトトギス、ドクダミ。

水 井 山

5月13日(日) 晴

畑 照 人

T君、元気ですか。休日も君と共に行動出来る日が少ないのが残念です。今日天気予報、午後から雨の様です。これを書いています。18時30分外でバラバラ音しています。予報通り雨です。待望の雨です。さて本題の山入りですが、大原野村別れ下車で水井山へ行ってきました。村の外れで同行者(女性)トイレ拝借。家の老婦人、「番茶でもお飲みやす」人情未だ地に落ちず…。ほんまに嬉しかったね。これで今日の山行、気持よい一日となったということ。流石に日曜日ですね。かなりのパーティーに会いました。快晴、少し風も吹くという好条件ですよ。仰木峠で探鳥会の若い人々に会いました。自然を愛する気風は大いに伸ばしてほしいですね。然し残念なことに峠のゴミ散乱。全く無茶苦茶ですね。ゴミ持帰り推進会の人が見たら泣いて怒るやろうかと、話しました三角点でおひるめし、握り飯のおいしいこと。山海の珍味も何のその…。同行者の差入れに大いに感謝した次第です。⁽⁷⁹⁴⁾ ⁽⁷⁶⁵⁾水井山、横高山、無事通過。独標から西へ下り登山口バス停着。10分待つてバス来る。グッドタイミングで帰宅しました。見た植物 山吹、キランソウ、チゴユリ、イカリソウ、ナルコユリ、ホトトギス、ヤハズノエンドウ、カキドウシ、ショウジョウバカマ、マムシグサ、ホウチャクソウ。それから高野川の川岸、フジの花が満開でした。それにサギが飛び交う風景は実に良かったですよ。それから下り道で谷の清水を飲んでるとすぐ横で「カエル」君の声。全く自然の中へ身を投げ入れた感じ。二人で大いに喜びました。大都会の中では味わえぬこの感激、山を歩くことの幸福です。同行者 1名。

「アセビ」の大木の枝が沢山折れていましたが、人が折ったものとは思えません。相当力のある動物でしょうかね…。

夜 泣 周 辺

5月15日

曇り時々晴で連日の夏日も一寸一服といった気温である。鉢植のクリンソウが咲き初めたので、私の花畑はどうなっているかね。水筒、パン、おやつをナップサックに入れて自転車で大岩へ向う大岩バス停の賀茂川岸辺の行楽後のゴミ処理、全くなっとらん。後始末の出来人奴は来るなど云い

たい。大岩から登り口までの山も伐採されて明るくなってしまった。木材にする為の木であるから切るのは当然だが、この処、愛宕山でも盛んに切られて、ほんまに山の様相が変わってしまった。一寸淋しい感じである。いつもの場所へ車を置き登りにかゝる。少し道が荒れているみたい。お花畑どうか花さん沢山咲いている様にとお願いし甲斐もなく、あゝ、無残である。今冬の大雪で谷が崩れたのである。あんなに見事に咲いていた(約50株)のが、ホンマに1/10の5株程になっている。これは天災のなせる業とは云えどもゆるせない。まあ、気長く復原するのを待つのみです。引返す途中から、栗夜叉谷への川沿いの道を探索して見る。何か花があるかいな。ラショモンカズラ、オドリコソウがあった。北山方面、西山、東山とそれぞれである花とない花があり、何処にでも咲くといっても、画一ではないらしい。

西山は愛宕山附近。東山は大文字山周辺であり、一般に歩かれるルートであり、脇道へ入ると又違うかも知れぬが…。とにかくにも、足で稼がないと中々に良い花に巡り会えないですね。先日の水井山で見たものも沢山ありました。夜はタラの芽で一杯。最高の気分、山よ万歳。今日木馬道発見? こんなのあるなんて、あゝ、知らなんだ。…

焼 杉 山

5月18日 晴

今日は公休日、ゆっくり朝寝してたらよいのに、平常通りに5時に目覚める。お天気は快晴のようである。もうジツとしていられない。足が山へ行け行けと言うとるよ。それでは昼飯前の山へ入ろうか。それならば、一番すぐ入れる処で焼杉山と決める。単独行なので即決である。大原行バスさんに乗せてもらう。寂光院前から西へ進む。天ヶ岳と焼杉山の導標あり。これ少し怪しいな。焼杉山への道は廃道となってるのか…。谷川沿いに行くか木橋は腐って使えないのである。約30分で引返す。天ヶ岳の道標に従って上る。金毘羅山、焼杉山、天ヶ岳の道標あり。十字路?である。これなら安心と焼杉へ向う。今冬の雪の被害は此所でも例外でない。道は荒れ植林の若木が倒れ道を邪魔するのだ。その為ではないかも知れぬが、何処でどう見損なったか正規のルート外れてヤブコギしてやっと△に到着。ヤレヤレである。ともかく目的達成だ。長居は無用とカメラ1枚とり下山。帰りは快調、カッコウと鶯と蛙の合唱。自然は良ろしい。今レポート書いてると焦げ臭い。そうです、夜泣きで採ったヤマフキを炊いているんです。一寸失礼、火加減調整してくるからね。サンショウの葉も入れましょう。これは鉢植の自家用です。一寸つまんで入れました。良い香りです。またおつまみが出来上り。ほんまに今日は快晴です。朝7:30発、帰宅13時20分。ひるめし前の山行も無事終了です。今13時30分。N.H.K 12ch 富士山の自然を放映しています。今日は山に縁のある半日でした。バイ、バイ。あゝ、忘れてた。花も見てきました。山頂上にはシャクナゲの木があり、満開中。ツツジは少しだけ。

大文字山

5月27日(日)

非番で天気が良いとなれば、家の中でウロウロするのはいやだね。お昼までの散歩ということで山入りする。休日なので家族連れの人々が多い。でも大師堂で皆さん引返しである。△へ行くコース殆んど無人みたい。近頃流行の森林浴とかいうのがこのコースで充分楽しめるのだ。池の谷地蔵様へお参り。庵主さん、いつ見ても美しいお方です。おみくじは凶の場合が多くて、今日も10番凶です。ほんまに良いのを出しとくれ…。雨宮社で蛙の声、今年も元気らしい。下りは駒の滝から南禅寺へ出る。途中でガサガサと音する。出た、出た、長いもの。そうや蛇だね。1.5mはある早く逃げと命令するがジツとして動かない。黒くて頭は長細い。毒蛇ではないようだ。ではお先に失礼と急いで下る。何か良いことありそうな予感。南禅寺も拝観者多数で中々の盛況である。この人出の中である人に会ったということ。鳥の鳴声も聞かれたが、残念だが名前が判らない。知らないのである。研究、勉強の必要ありそうだ。

今日の花、モチツツジ、満開。シライトソウ、少なくなった。ハウチャクソウ、チゴユリ、ショウジョウバカマ、シャガ…少ない。

例会報告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1487	日本ヶ塚山 とその周辺 の山	5月12日 ～13日	晴	伊藤 潤治	三橋 勉 ほか大垣山 葵会 3名	一週連続きの晴天にめぐまれ、奥三河の山と、遠江の山々を登ってきた。 別稿報告
1488	横井氏退職 記念登山 北比良縦走	5月13日	晴	大槻 貞従	荒田夫妻、石田、津田、原田、奥村、山下、伊達、沢井、上島、豊島(市役所)、横井の以上13名が、参加してにぎやかに武奈から北稜を縦走してきた。 別稿報告	
1489	利尻トレ ニング 棧敷岳	5月27日	晴	武田喜久郎	大槻 F3	予想したより参加者少なく、もの足りないトレーニングであった。そこで北山峠めぐりをしてきた。薬師一ナベクロー祖父谷一石仏峠一狼峠と5つの峠を歩いてきた。

1490	還暦お祝い 登山(変更) 半国山	6月 3日	晴	田中 忠久 三橋 勉	坂井、山下、奥村、河村 F 1、山村、石田、大槻雅、方山、渡辺朋、三橋 F 2、原田、鷺見 F 1、岡田、河合(新人)吉田 F 4、田中大倉、子供と友人 2、上島、大槻貞、坂田以上 3 2名という大部隊が金輪寺の尾根コースを約 1 時間半で山頂到着、記念品贈呈式等のお祝い行事を行った。別稿報告
1491	利尻トレ ニング(変更) 大文字山	6月 10日	雨	(変更) 吉田 武	岡田、方山 渡辺朋、辻 山口(新人) 岡本義 梅雨入りのため大雨となったので、谷はあきらめて近くの大文字山へ登ってきた。

雑 報

▲6月集会報告

6月 12日 下鴨寮

出席者 O B 畑 照人、津田 実 九条 古市昌造 烏丸 大倉寛治郎
 本局 大槻雅弘、山口雅直、川原傳治、渡辺朋子、方山宗子、鷺見敏一、三橋 勉
 高速 岡田茂久、河合秀晃 以上 13名

例会報告のあと新人 2 名の紹介があり、山口君は主として北ア、八ヶ岳、北海道の旭岳等縦走登山が主な山歴とかで、これから沢登りを教えてほしいという事であった。河合君は高校のとき白馬岳を登っただけですということである。当山岳部の特色としては、沢のほりや、岩、ピークハンター、そして飯山とオールマイティな山行をしているが、山につれていってもらいではなく、一緒に行くという行動力のある山行きをしてほしい。そして、月最低 1 回は参加してもらって息の長い山行きをしてほしい。と大槻副部長、そしてまず安全登山、仕事第 1、家庭があって趣味の山があるのだという意識でもって、ガンバッテほしいと岡田部長の激励の言葉がありました。出席者全員自己紹介をして、夏山のトレーニング例会等を決定し、9 時前に終了しました。

▲部費受領

烏丸 重田晋助

帆布・瀧布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店 伏見区柏香町西友ストアー4F
TEL (623) 0824
山科店 山科区音羽野田町0番
西友ストアー山科店
TEL (592) 9770内線228

一年中、山用品だけの プロショップ

おかげさまで創業5周年を迎え、
店も大きく、商品も充実させて
頂きました。もちろん開店以来の
全品徹底バーゲン価格も続行中!



ログ ケビン

京都市中京区御幸町通船場町南入
TEL (075) 221-7569 南624
(寺町の一ツ西の通りの角に東側)
(広さ約50坪、敷地約50坪、坪数約3分)



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の

ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を
確信ある価格で...
好日山荘



河原町六角下ル東入
TEL 241-1731

山の本

山岳書 電話ノ本にて

無料配送

ゆかり書房

075 (891) 8333

昭和59年7月1日

京都市中京区壬村坊城町48

京都市交通局 大
京交山岳部

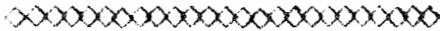


お知らせ

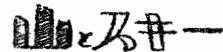
今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先 本店2階
京都市中京区西ノ京町24
ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい...ネ



のことなら...

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具はセと御相談下さい

山とスキー 専内店

ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入
TEL 222-0363

御婚礼
御引越



きおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山踏町12-12
TEL (075) 581-3101
本社
東山区大和大路通四条下ル 541-2345
夷川営業所
中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコー クラフト
西島輝雄

左 川端通丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442



京都市中京区新町三条上ル
075-255-0288

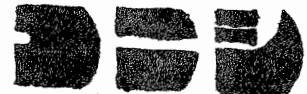


この用具の事ならユニシガー一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして

海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202